

よろこび

日蓮宗 蓮聖会

本山 妙圓寺

長音山 本誓寺

『よろこび』五十四 (幸福とは何かの再考)

貫首 齊藤 日軌

幸福とは何か？ だいぶ煮詰まってきた気がする。私たちが幸福を考えるとき、自分とは何かよく知っておくことが大切である。自分とは神仏の分張、分身であり、個々の意識であると同時に全体すなわち所謂の命の総和、総合人格と一体なる生命体でもある。これが仏知見、悟りであり、神の認識である。

ここで幸福とは何か考えると、それは自分個人のものであると同時に、全体生命、宇宙意識の感覚である。云うことになると、個人の幸福が全体にあると云う。全体の幸福を前提として自分の幸福がある。故にあり、世界のどこかで飢えや、戦争にも苦しんでいなく、日本人の鬱病、引き籠もりもなかなかに減らないうる。

これは宇宙意識の構造が、一念三千、十界互具であり、個と個の意識、個と全体の意識が密接につながっていることによる。つまり自分の意識は聡意とコンピュータのネットワークのようにつながっているのだから、自分の苦しみの感情も他の存在の苦しみの感情とつながり、他の存在の苦しみも自分の苦しみと化する。



みおしえ

「いそしむことを楽しみ、放逸におそれをいだく修行僧は、墮落するはずはなく、すでにニルバナの近くにいます。(法句經二十二中村元訳)」

ニガマ村出身のティッサ長老は、よく親族から必要な布施のみ受け取り、サーバティへ出かけてアナータピンディカ長者やパーティナ大王の大布施を受け取ることはしなかった。仏はその小欲に對する精進を「小欲は私の習慣である」と褒め称えた。

瞑想や信心に「いそしむことを楽しみ、放逸におそれない。だく人は、已に煩惱を滅した悟りの世界に近い。涅槃は煩惱を止滅し動物的な意識から靈的意識に移した悟りの意識を言う。涅槃の状態に入ることにより、人は、輪廻から解脱できる。すなわち諸行無常、四苦八苦の人生から離脱できるのである。仏道成就の目的は道の精進よって達成される。」

心の言葉

南無妙法蓮華經と唱え
道に精進し涅槃に近づこう

